

スペインにおけるカシ林とイベリコ豚の持続可能な複合経営

1. 地域の概況

スペインの大半は地中海性気候に属し、特に中央高地から西部沿岸地域にかけて夏のきびしい乾燥に耐えるカシ林（セイヨウヒイラギガシ *Quercus ilex*、コルクガシ *Quercus suber* など）が分布する。イベリコ豚とは単にイベリア半島の豚の意味であるが、ここではカシ林のドングリで育つという条件が必要である。カシ林及びイベリコ豚産地は、中央高地西部やアンダルシア州の南西沿岸部等に分布する。



2. カシ林の多目的利用と植生管理

コルクガシは約 10 年に一度厚いコルク層が採取され、この地方には樹齢 500 年生前後のものが存在する。このように放牧カシ林にも、コルク生産にもともに長い歴史がある伝統的な営みである。コルクガシ 1 本に約 25～30kg のどんぐりの実をつける樹齢 30～50 年のカシの木が 1 頭あたり 25～30 本必要である。放牧地のカシ林木密度は相当疎らではあるが、1 頭あたり 1～2.5 ヘクタールの森が必要と云われている。しかもこのようなカシ林での放牧は豚に限らず、牛や羊まで行われ、そのため林床への太陽光の照度と林木密度を調整して、下草の成育状況の管理も行われている。



図 放牧コルクカシ林（アンダルシア州ウエルバ）

出典：フリー百科事典『ウィキペディア』

3. 伝統的景観における生物多様性

カシ林のドングリや下草などの伝統的な利用は、地元の共有の権利として営まれてきた入会権である。林地は狩猟物を含む非木材林産物を持続的に収穫できるように管理されてきた。この地方でも農林業の衰退によりカシ林の減少の恐れがあるが、イベリコ豚への高い需要は、伝統的景観を次世代へ伝承する可能性を提示している。まさしく伝統的利用が持続可能であり、安定した人と自然環境との関係を示している。



図 イベリコ豚はドングリ、牧草、球根、根を食べる
出典：千葉県畜産協会「イベリコ豚の味の秘密」

出典：社団法人千葉県畜産協会養豚部、2008

URL: http://www.np-chiba.jp/shouhisha/y08_02/index.htm